

●南大隅・本土最南端の世界 前編●

ー 鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン (シンガポール出身)



皆さんは、日本の本土最南端がどんな感じかを考えたことがありますか？

南大隅町は温暖な気候に恵まれ、三方を囲む海や山々など、豊かな自然があられる町です。

亜熱帯の湿潤な気候で育まれた木々が盛んで、日本の他の地域と比べて全く違う雰囲気を持っている場所です。

その日、朝一番で大隅半島へ向かい、南大隅役場のみなさんに温かく歓迎していただきました。そこからは南大隅役場の主査と主事とともに最初の目的地、南蛮船係留の大クスへ！



大隅へ出発する時に通り過ぎた、朝の霧に包まれている桜島



鹿児島の最南端にある南大隅町

南蛮船係留の大クス

この樹齢約千年を越す大クスは雄川の隣に立っており、町民の誇りの一つでもあります。

500年ほど前、この辺りは天然の良港であり、唐や琉球、東南アジアなどからの交易船がよく来ていました。その際、このクスノキ（大クス）に舳舻を繋いだのだと言われており、樹名の由来となったようです。



塩入橋入口での南蛮船係留の大クス

500年経った現在、周りの風景は大きく変わりました。交易船ではなく、代わりにドラゴンボートが走ります。毎年「ドラゴンボートフェスティバル」では、雄川の河口380メートルを競います。しかし、樹齢千年を越す南蛮船係留の大クスは変わらずにその町を見守っています。



毎年、「ドラゴンボートフェスティバル」が開催される雄川

佐多旧薬園

そのあと、近くの佐多旧薬園にも行きました。旧島津藩の薬園跡で、いろいろな珍しい植物・薬草が栽培された場所です。



佐多旧薬園とレイシ

薬園にはリュウガン、レイシ、オオバゴムノキ、アカテツ、ガジュマル等があって、全部日本ではあまり見ない植物です。私たちが行ったときはちょうどレイシの時期だったので、真っ赤なレイシをあちこちに見ることができました。



熱帯国みたいな佐多岬への道

佐多岬の入口

次は本番の佐多岬へ！片側に青い海が輝いて、ピロウやソテツなどの熱帯植物が並んでいる道を通りました。熱帯の国から来た私にとっては意外な懐かしい感じがしました。



入口にある壮大なガジュマル



トンネルの入口

佐多岬の入口に着いた時、ガイドをしてくれる南大隅町観光協会の専務と南大隅町の元職員の方に温かい歓迎を受けました。

入口から短いトンネルを通り、紺碧の海と豪華な景色を望める爽やかなオープンエリアに着きました。鮮やかな熱帯植物に囲まれた歩道に沿って、田中さんの案内を聞きながら、前方にある熱帯林へ進みました。



岬への歩道と周りの景色

御崎神社

そこには 708 年創立で本土最南端の神社、御崎神社がありました。御崎神社は縁結びの神としても人気が高いらしいです。



御崎神社

ソテツなどの熱帯植物に包まれた赤い屋根の社の姿は、すごく新鮮な南国感が感じられます。

佐多岬展望台

熱帯林を通過して、すぐ目の前に佐多岬展望台がありました。一番上の階に登ると、息をのむような絶好のパノラマが広がりました。ここでは太陽の光にきらめく青く美しい太平洋、東シナ海と錦江湾があって、天気の良い日は屋久島や種子島まで望むこともできる絶景です。



佐多岬展望台で見た
無限に広がる水平線

残念ながらこの日はちょっと曇っており、屋久島や種子島までは見えませんが、その壮大な景色、柔らかな海風と落ち着く波音で心が癒やされました。



(今回はここまで！コラムの続きは 171 号で掲載します。)